

保育計画成果報告書

法人名	社会福祉法人 名古屋新生福祉会
施設名	新生第2 保育園 さくらナーサリー
報告者（役職）	横地 由紀（園長）
住所・連絡先	〒462-0011 愛知県名古屋市北区五反田町 297
	☎ 052-903-8080
	E-mail Shinseidai2@bz04.plala.or.jp

○タイトル（保育計画）

自然は遊びの宝庫

○主な助成備品

パパイヤハウス ベンチテーブル お昼寝ベッド 6 輪ひなん車

1. 実施した保育計画策定の目的

新生第2 保育園では、隣接する畑の真ん中に、センターハウスのようなパパイヤハウス、テーブルやベンチを置き、子ども達が花や農作物、昆虫、鳥などの自然に触れて遊び、その中から楽しく学び、収穫物に感謝し、生きること、また生かされていることに感謝してほしいと願い保育をしています。

そして、子ども達、保護者、近所のグループホームの方々や近隣の方々との笑い声の絶えない交流の場とし、地域貢献を目指します。

2. 具体的な実施内容

自然に触れて遊ぶように、畑の自然環境を工夫し、子ども達と一緒に、野菜や花の栽培を行いました。

パパイヤハウスやベンチやテーブルは、おうちごっこやお店屋さんごっこ、お医者さんごっこ、また休憩の場所となることもあり、畑でおやつタイムを楽しんだこともありました。ときには、忍者ごっこと称して、パパイヤハウスやベンチやテーブルがアスレチックになる時もあり、子ども達の畑での遊びはどんどん広がっていきました。秘密基地づくり、穴作り、築山づくり、生えている草木でお面づくりやおままごとのお皿やごはんにして遊びました。



野菜栽培では、種をまく事、水やり、収穫だけではなく、土づくりや畝作り、草取りや肥料やり、野菜によっては支柱たても子ども達と行いました。栽培するにあたってなるべく子ども達がかかわれるように工夫しました。玉葱、キュウリ、ニンジン、さつまいも、いちごなどの野菜やくだもの、パンジー、チューリップ、ビオラも栽培しました。

何種類か野菜を栽培した中で、玉葱は親子で収穫することにしました。保護者には予め、伝えておいたので、お迎えの時は親子で畑に入り、「伸びてきたね！」「玉葱ってこんなふうに生えるんだ」と親子で成長を楽しみにしている様子でした。細い葉はヒョロヒョロ伸びてくるが子ども達には「玉葱」という意識は無いようで、「土の中に玉葱ができるんだよ」と話しても、保育士が期待したほどの興味は示しませんでした。ところが、土の表面に玉葱の頭が見え始めると、途端に興味がわいてきたようで「たまねぎだー！」「あっ！これ赤いよ」と観察するようになりました。

収穫の時期になり、お迎えの時間に親子で収穫して、持ち帰ることにしました。「どれにする？」「赤がいい！」「大きいタマネギがいい！」「なかなか抜けないね」と親子の会話が弾んでいました。抜けると「何にして食べる？」「お味噌汁に入れる」と収穫の喜びを親子で味わっていました。

その後、保護者に感想を聞くと、甘くておいしかったです。収穫楽しかったです。オニオンスライスにし、最初は生で食べることをためらっていたが、「Mがお水をあげて育てた玉葱おいしいよ！」と言うと「おいしいね」と食べていました。

保育園では、収穫した玉葱は、子ども達と一緒に皮をむき、ホイル焼きにして味わいました。自分たちで育てた玉葱は格別だったようで、普段、苦手でなかなか口にしない子もおかわりをしていました。



10月、「さくら ふれあいフェスタ」として運動会を初めて開催しました。日頃から「いつでも、保育園に遊びに来て下さい」と地域の高齢者の方々や若い子育て親子の方々に、声を掛けていますが、畑の中まで入ってきて一緒に遊ぶことは、あまりありませんでした。

しかし、パパイヤハウスを真ん中に地域との交流を目指しており、職員でチラシを手作りして、近所にポスティングをしました。すると、近所の方が、「私も、知っている親子に声かけてあげるわ」と言っているそばから、通りかかった知り合いの親子に声を掛けて下さっていました。この時、地域のつながりの大切さを強く感じました。

当日は、グループホームのお年寄りの方、若い親子の方々数組の参加があり、園児と一緒に各種目を楽しみ、笑顔が絶えない1日となった。



3. その成果と評価

遊具が無い畑で、自然の素材を活かした遊びを通して、子ども達は自分で発見して、工夫して遊びがどんどん広がっていきました。その様子を見て、保育者もどうしたらもっと子ども達がワクワクするあそびができるだろうと、今度はこうしてみよう、この素材を増やそうと、畑の活用方法を話し合いました。子ども達の笑顔と同時に職員のチームワークがさらに強くなりました。こうあるべきという従来の枠を外し、子ども一人ひとりを理解して保育をしました。



また、親子で野菜の収穫をすることを働きかけたことによって、栽培への興味や関心を持ってもらうだけでなく、家庭で調理して味わう事で、「食」を介して親子のコミュニケーションが豊かになりました。そして、保育者と保護者の関係も今まで以上に深まりました。

パパイヤハウスを拠点として、子ども達、保護者、職員、地域の方々へ働きかけはそれぞれ異なりますが、確実に広がりを実感しています。しかし、まだまだ地域貢献としては、薄いと感じており、次の段階として保育園は何ができるのだろうかと模索しています。



4. 今後の課題と展望

新生第2保育園は0～3歳児までの準乳専保育園です。3歳児になると他の園へ変わらなければなりません。私たちは、この保育園を開設した時から就学までの標準型保育園にしたいと考えています。私たちだけではなく、保育園を利用している保護者の方からも要望は強くあります。保育園の利用者の中には、外国籍の方も2割程在籍しています。就学までの保育を行う事で、子ども達が途中で園が変わる事無く、慣れ親しんだ環境や友達、保育者と生活できる事は、とても大切な事と考えます。地域を巻き込み、地域に根付いた保育園を目指す私たちにとって、これからの大きな課題です。

以上